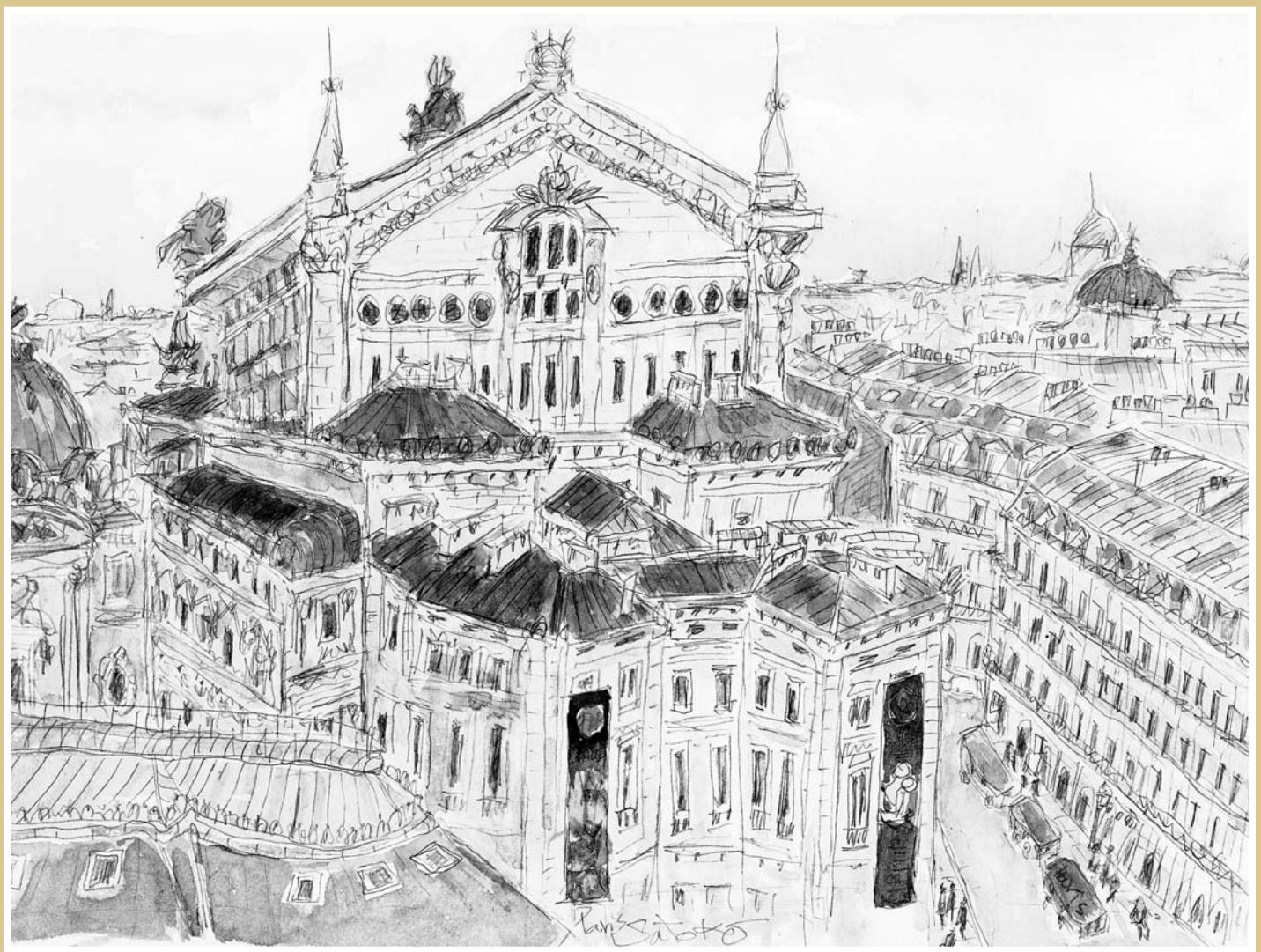


やまさき文化

’13-3 *No.32



穴粟市山崎文化協会

田中義一氏を名指して鋭く迫った。

『セミヨーノフの金塊』始末記

山崎文学会 荒木俊介

大正十五年三月四日、この日の第五十一衆議院本会議場は冒頭から荒れていった。

事の起こりはその前日、思わぬ一人の男が現政友会の田中義一総裁を相手に総裁が嘗て陸軍参謀次長在任中のシベリア出兵の頃「セミヨーノフの金塊」と呼ばれる巨額の財宝にまつわる会計疑惑について検事総長宛に告発したことに始まる。

その男の名は三瓶俊治といい、元陸軍主計局勤務の主計二等兵で、思わぬといつたのは陸軍主計局といえば会計検査院も容易に立ち入れない程の高度の守秘義務を求められる職務で、本人も主計局勤務を許される程の人物でもあり、とてもその様な大それたことを自ら仕出かす様には見えなかつたからである。翌日の新聞でこれを知つた嘗ての同僚たちも

「あの三瓶が・・・」

と当時確かにそうした疑惑は密かに囁かれていたとはいえ、これにはきっと何か裏があるのではと一様に驚きを隠せなかつた。

告発の内容というのは本人が現役であった大正九年のシベリア出兵の頃、陸軍の主計局の金庫に当時の田中陸相、山梨次官、菅野軍務局長、松木高級副官の個人名義で総額八百万円を下らぬ預金証書があつた。

この証書は九年末から三瓶らが無記名公債に買い換えたが、これは陸軍機密費という会計検査院も立ち入れない会計のため使途不明のまま不正行為によつて半額以下に減少していたというのである。

だが、事はそれだけではすまなかつたのである。翌日その告発と機を一にするかの様に衆議院本会議において与党憲政会切つての論客として知られる中野正剛代議士がその告発状を片手に質問に立つてその告発された野党政友会総裁

「昨日三瓶俊治なるものが検事総長宛に提出したこの告発状によるとシベリア出兵時、軍部には会計検査院も立ち入ることの出来ない機密費というのがあって・・・」

その機密費の中にシベリア出兵当時「セミヨーノフの金塊」と呼ばれて噂の高かつた巨額の財宝が無記名公債として繰り入れられていた。そしてその公債が換金され、最近田中義一氏が政友会総裁に選出されるに当たつて政界にばら撒かれた。その贈賄に関与したのが小川平吉、鳩山一郎、小泉策太郎、秋田清の四代議士でこの四人を召喚してその経緯並びに「セミヨーノフの金塊」が隠匿されていると噂されている機密費について查問すべしというのである。

議場は一瞬騒然となつた。

議場だけではなかつた。予てから謎の多い「セミヨーノフの金塊」として囁かれていた噂だけにこのことが翌日の各新聞にも大々的に報道されたから世上も驚いた。この「セミヨーノフの金塊」とは一体どの様な財宝なのか。

話は一九一七年(大正六年)のロシア革命によるロマノフ王朝の崩壊から一九一八年の日米英仏連合軍による「シベリア出兵」に遡る。

一九一四年オーストリアの皇太子がセルビアの一民族主義者に暗殺されるという事件をきっかけに独、奥、トルコと英、仏、ロシアの間に第一次世界大戦が起きたのだが、長引く戦況に双方共に疲れを感じ始めていた。

先ず初めに音を上げたのがロシアである。先の日露戦争で多額の戦費を浪費して敗戦、結果生じた社会不安を抱えての参戦である。

参戦して二年半過ぎた一九一七年二月、首都ペトログラードの一機械工場に起きたストライキに不満兵士たちも加わって規模は次第に増大し、この労働者や不満兵士たちはメンシェビキ(少数党)政党と組んで「二月革命」を起こしソビエト(協議会)政府を樹立、皇帝ニコライ一世は退位を迫られ宣言文に署名、此処に三〇〇有余年続いたロマノフ王朝の帝政はあえなく滅んだ。

しかし、実権を握ったケレンスキー内閣の革命政府もその年の十月にはトロッキーやレーニンの率いるボルシェビキ(多数党)派と呼ばれる過激派によつて

倒され、新たにボルシェビキ派のソビエト革命政府が誕生する。所謂「十月革命」である。

この新たに生まれ変わったソビエト政府は速くドイツとの間に単独講和を結び、続いてロマノフ王朝の莫大な財宝や国家資産を安全のためモスクワ東方三〇〇キロにあるカザン市の国立銀行地下室に保管することにした。ところが、このことが皮肉にも厄介な事態を引き起こす原因となるのである。

こうして曲がりなりにもボルシェビキ派のソビエト政府は内外諸般の政務を遂行してゆくだが、国内の政情は容易には収まらなかつた。

時を経てこの革命政府の樹立を喜ばぬ反革命勢力がウラル地方のウファ市に五人の統領制による西伯利政府と名乗る反革命政権を樹立することになる。

しかし、その政権も間もなく元黒海艦隊司令官コルチャック提督が赤化思想を恐れた英國などの後押しでクーデターを起こして反革命の軍事独裁政権に変容することになる。

ところが、こうした混沌とした政情が更に複雑になる事態が起きていた。それはチエツコ軍と呼ばれる軍隊がこの時期にドイツからの独立を求めて蜂起したことである。

当時ロシアに居住していたチエツコ・スロバキア人らをも含めてほぼ五万人規模の兵力になつてゐた。

その頃ロシアのソビエト政府はドイツとの間に単独講和を結んだのだが、その結果東部戦線で余ったドイツ軍が西部戦線に加勢されることを恐れたフランスはそのチエツコ軍を巧みに連合国側に引き入れて東部戦線に回そうとして列車での輸送途中、ロシアに収容されていたチエツコ軍がドイツ兵捕虜がそのチエツコ軍日がけて鉄片を投げつけたため怒ったチエツコ軍がドイツ兵捕虜に襲いかかるうとし、それを阻止して武装解除しようとするソビエト革命政府軍との間に思わず争いが起きるのである。

が、この騒動は一騒動では終わらなかつた。連合国側に組みしたチエツコ軍は武装解除しようとするソビエト政府軍に逆に襲いかかつてこれを敗走させた。ソビエト政府軍といつても樹立されたばかりの政権の軍隊で、労農兵の寄せ集め集団のような軍隊であるから士氣も上がらず、勢いを得たチエツコ軍はソビ

エト政府軍を敗走させて忽ち主要都市カザン市を占拠した。

ここは嘗て革命軍が倒したロマノフ王朝の財宝や国家資産を安全のためにと首都ペトログラードからこのカザン市国立銀行の地下室に移送、保管したところである。

余りにも急なカザン市の陥落の前にソビエト政府側では撤退に際しその財宝の一部しか持ち出せず、大半はチエツコ軍の手に入ることになるのであるが、このことが「セミヨーノフの金塊」として日本軍の手に入る端緒となるのである。

勢いにのつたチエツコ軍は手を緩めずその後も進撃を続け、チエリアビンスク、ベンザ、オムスク、サマラとウラルから中部シベリア一円を制圧し、既に反革命政権としてオムスク市に樹立されていたコルチャック提督率いる西伯利政府に奪つた財宝を渡して共に協力してソビエト革命政府を倒すことを約する。

だが、ソビエト革命政府もこのまま無気力に引き下がる様な政権ではなかつた。速早く軍制を整えて労農兵の寄せ集め軍隊から所謂「赤軍」と呼ばれる訓練を重ねた規律ある精銳へと変容して反撃を開始したから逆にコルチャックの率いる西伯利政府軍やチエツコ軍は次第に劣勢となり、忽ち初めの拠点ウファ市を放棄して遙か西、オムスク市に後退することになる。

赤化思想を恐れた連合国側はこうした形勢を黙つて見ていなかつた。反革命派のチエツコ軍やコルチャック軍を救援するという絶好の口実を得た連合国は日本を誘つてシベリア出兵に踏み切るのである。

出兵までには日米英仏各国の利害の思惑もあつたが、最終的にシベリアに最も近い日本の兵力が一万二千（第十二師団）、米國軍八千、英仏軍七千八百ということになり、その連合軍を日本の大谷喜久蔵大将が指揮を執ることになるのである。

しかし、このことが日本独自での兵力増派を容易にし、米國の非難を横目に北満駐在の第七師団を、続いて第三師団と次々と増派、総兵力約七万という規模でバイカル湖から東へチタ、ハバロフスク、ウラジオストックまで東部シベリア一帯を制圧してしまつた。

各主要都市には陸軍の特務機関がおかれ各地の内戦模様は逐一東京に報告されていた。こうした戦況の中で日本の世論は沸いていた。日本の高名な学者らの唱える日本海を内海とする東部シベリア一帯に新国家を建設するという「日本海内外構想」である。陸軍もこの世論に押されるかのように密かにその準備を進めていた。が、その政権を誰に任せかに悩んでいた。

丁度その頃外モンゴル生まれで名前をグリゴリー・ミハイログイチ・セミヨーノフという元露国軍人がいた。人間的には余り褒められた人物ではなかつたが、軍人としては「聖ゲオルギイ」勳章を授かるなど数々の戦功によつて大尉にまで昇進していた。

ところが「十月革命」後、戦線を離れて故郷モンゴルに帰つていたセミヨーノフは北満一帯の独立を意図し反革命を唱えて兵をあげるのである。ソビエト革命政府を嫌つて北満に逃れていた旧露国の知識人たちもそのセミヨーノフの挙兵に理解を示して助勢をしてくれたためその勢力はみるみる大きくなり、シベリア鉄道や北満の東清鉄道の主要駅を占拠していた革命軍の兵士たちを駆逐して軍制を布くなどして着々とその勢力を伸ばしていく。

このセミヨーノフに日本のチタやウラジオストック駐在の特務機関長黒沢準大佐や井染録郎大佐らは早くから目を着けて財政的にも兵力でも援助を続けていた。

勿論、そのセミヨーノフを「日本海内外構想」の計画に利用しようと目論んでのことである。セミヨーノフもまた積極的に賛意を表して協力的であつたから日本の世論の後押しもあつて準備は順調に進められていた。主要都市には民政安定のため金融機関の支所も進出して貨幣流通の準備も進められていた。ところが西方のソビエト政府軍、所謂赤軍の攻勢は次第に激しく反革命政府のコルチャック軍は堪らず遂にその拠点オムスク市を放棄して国立銀行に保管したロマノフ王朝の金貨、金塊の財宝を生き残りのチャッコ軍兵士らの護衛のもとにセミヨーノフ軍や日本軍の拠るチタ市に列車で移送し、自らもセミヨーノフの拠るチタ市に逃れようとするのだが、その途中赤軍に捕らわれて処刑されることになる。

財宝を積んだ列車は途中何輛かは火災を起こしたり、暴徒らに奪われたりし

ながらもチエツコ軍に守られて辛うじてチタのセミヨーノフや日本軍の手に入ることになる。

しかし、赤軍はその後も追撃の手を緩めず日本軍も手薄なためチタも放棄せざるを得なくなり、急遽、財宝も再び列車で一応安心な満州のハルピンに移送することにして、後退を余儀なくされる。

こうした戦況や政情は財宝の行方と共に高橋是清蔵相の指示によって逐一チタ駐在の特務機関から東京に打電されていた。

ところが、この様な複雑な情勢報告を受けて時の寺内内閣はその対処に困惑していた。というのはこの財宝の行方を絶えず注視していたハルピン駐在の露國公使が日本政府の対応に厳しく抗議してきたからである。

内田外相は外交上これは露国に返還すべきであると主張するのだが、早くからその行方について特務機関などを通じて情勢を把握し、指示を与えていた高橋是清蔵相の

「ロマノフ王朝以来、度重なる兵器の輸出或は民間輸出業者の債権の未回収などを考慮すると一度我が軍の手に入つたものをわざわざ引き渡すは愚か」

という正当といえば正当、強引といえば強引ともいえる高橋蔵相の意見が通りこのまま一部はセミヨーノフの部下でハバロフスク駐在のカルミコフ将官らに残りは予定通り北満のハルピンに向けて移送させることにした。このカルミコフ将官に渡された財宝も小額だが後にハバロフスク撤退の際駐在武官菅大佐の手に渡り、複雑な経路を経て日本に持ち込まれることになるのだが、こうしたことことが巨額な「セミヨーノフの金塊」の疑惑を深める一因にもなっているのである。

こうしてセミヨーノフや日本軍に守られて来た財宝もハルピンまで来ればそこから先は日本の経営する南満州鉄道に入るのでもう安心である。だが、思わず難關が待ち構えていた。というのは露国の政情不安定につけ込んで北満の軍閥張作霖がハルピンを中心とした旧露国が経営する東清鉄道の主要駅を制圧して日本軍が莫大な財宝を移送している列車のことを探知してあわよくば奪おうと画策していることであった。

最大の難關は露国経営の東清鉄道から南満州鉄道への線路の切り替え時点で

あつた。果たしてハルピンを南下して遼門駅に着くと露人の駅員によつて機関車を外されて動けなくなつてしまつた。ところが意外にもその場を助けてくれたのが張作霖配下の中国人であつた。一時的ではあるが主要駅を制圧しているだけに露国側との話は容易についたが、その後中國側は一転して列車の積載物を点検したいといいだした。始めからその意図で助け舟を出してくれたのである。危機を感じた日本陸軍は急遽、寛城子守備隊一個中隊を寛城子、長春間に配備し、積載物は軍需品であるといい通して交渉を長引かせている間に南満州鉄道の貨車に積み替え夜間を利して長春に向けて出発し、翌日には大連の陸軍兵器庫に收められ、後日、當時大陸金融機関の元締めともいえる朝鮮銀行を経て大半は日本に送られた。

そして當時陸軍省の重要なポストである參謀次長の要職にあつたのが田中義一だ。佐でこの満鉄によつて運ばれたロマノフ王朝ゆかりの金貨、金塊の財宝が「セミヨーノフの金塊」といわれるようになつたのである。

話は再び日本の政界に戻る。

陸軍省主計局の元主計兵三瓶俊治が「セミヨーノフの金塊」にまつわる機密費の不正流用についての検事局への告発、続いてこれに合わせるかの様に政友会の中野正剛代議士によつて憲政会田中義一総裁の陸軍機密費にまつわる金錢の政界ばらまき事件糾弾発言によつて検事局も事件解明に動かざるをえなくなつていた。

告発した当の元主計兵三瓶俊治の身辺も新聞記者たちの殺到によつて俄に慌しくなつてゐた。この様な事態になるとは予想もしていなかつただけに家にもおちおち居れないような状態である。

様々な噂が流れる中で嘗ての同僚たちは三瓶が国会の政党間での政争の具に利用されているのではないかと疑い始めていた。確かに現職の当時「セミヨーノフの金塊」にからむスキャンダルが密かに囁かれていたことは事実である。だが、軍律厳しい局内では表立つてはおくびにも出せる話ではなかつた。

それが今国会という全国注視の公の場で四代議士査問という形でとりあげら

れているのである。

検事局にも緊張が走つた。

相手が今を時めく軍部である。容易なことでは捜査に立ち入れない。先ず軍部との取引銀行から個人金融業者の乾新兵衛らまで取り調べに掛けたが、これといった確かな証拠が見つからないのである。

そのうちに態勢を立て直した政友会では今度は逆に査問要求を提出した憲政会の中野正剛代議士の個人攻撃にかかった。

中野代議士が軍部の醜聞を国会という公の場で取り上げたのは大正十一年から十二年にかけて赤露系政府の非公式代表として滞日していたアントノフなる露人から金十万円の贈賄を受け取り、軍部と国民の離間を図つた。これは国家への反逆罪であると決め付け、中野代議士に自決を要求する決議案を提出した。こうした政友会の動きにつれて軍部も黙つてはいなかつた。當時陸軍切つての大立物といわれていた宇垣陸相が中野議案の中に陸軍の威信にかかる文言があつたとして憲政会の若槻首相以下幹部閣僚を前にして睨みつけた。

「憲政会が中野代議士に許してあの様な演説をなさしめたのは・・・憲政会全体としての陸軍に対する考え方との際鑑と承知しておきたい。余は陸軍數十萬軍人の先頭にたつものである。会派の今後の態度如何によりては更に考え直さねばならぬ」

これでは抗議というよりも恫喝である。

憲政会の若槻首相も頭脳明晰な政治家だが陸軍の前には意志薄弱ひとたまりもなく

「将来においては厳に戒め・・・」

と陳謝し、中野代議士もこれまた第三者を通じて詫びをいれて、議会における陸軍機密費問題は審議未了のまま、あっけなく幕を下ろしてしまつた。

同時に告発の張本人である三瓶俊治は検事局による取調べを受けた後政友会の代議士津雲国利に引き取られ、

「愚かにも政争の具に弄されて・・・」

という意味の懺悔録を公表して日蓮宗に身を投じてしまつた。

そして奇怪なことに事件担当の石田検事はその後暫らくした頃大森、蒲田間

にある鉄橋の下の小川で変死体となつて見つかり、担当者不在のまま事件は不起訴処分となつてしまふ。

一九一八年（大正七年）七月、赤化思想を恐れ反革命軍を支援する目的でシベリア出兵に踏み切った連合軍はその後勢いを盛り返したソビエト赤軍の前にコルチャック将軍は処刑され、チエツコ軍も敗退するに及んで出兵の目的を失い、一九二〇年六月撤兵することになるのだが、沿海州一帯にセミヨーノフを首班とする傀儡政権を意図する日本陸軍だけは国際社会の非難を受けながらも駐留を続けるのである。

しかし、バルチザンなどによるゲリラ戦に悩まされ、多額の戦費と人命を損した末、遂に一九二二年（大正一一年）六月撤兵を余儀なくされる。連合軍の撤兵から遅れること二年後のことである。

そしてセミヨーノフは関東軍庇護のもとに大連で隠棲の身となるのだが、その後太平洋戦争敗戦後の東京裁判に日本陸軍への協力者として召喚された後、ソ連に身柄を移されて国家反逆罪として死刑を宣告されることとなる。

最後にこの「セミヨーノフの金塊」の移送に現地で深く関わった後の藏相勝田主計氏は当時の感慨を次のような句に托して友人に書き送っている

寒菊の葉枯れ

茎枯れ 年暮れぬ

第三十四回春の芸能祭ご案内

日 時 平成二十五年五月十九日（日）午前十時から

場 所 宍粟市山崎文化会館（サンホールやまさき）
主 催 宍粟市山崎文化協会・財山崎文化振興財団
後 援 神戸新聞社・宍粟市教育委員会・宍粟市

会員の日頃の練習の成果を、ぜひご覧くださいますよう、ご案内申しあげます。

参加部門 山崎詩舞道連盟 山崎邦楽の会

山崎日本舞踊の会 さつき民踊グループ
山崎民謡連国会

その他宍粟市内より賛助出演



故郷は遠きにありて思うもの

動物写真家

松岡史朗

(宍粟市山崎町出身)

「ふるさとは遠きにありて思ふもの そして 悲しくうたふもの」室生犀星「小景異情その二」の有名な冒頭の一節です。室生犀星の故郷は石川県金沢市。東京で暮らす室生の望郷の心情が切々と綴られた詩として、人気があるようです。しかし、実はその逆、故郷には自分の居場所がなく、もう郷里には帰れない、帰らない。遠く離れた異郷の地、東京で暮らす決意の詩なのです。ただし、決して故郷を捨てたわけではありません。郷愁の想いは、いつの日でも心の奥に脈打っているというのです。

私が故郷山崎町を離れ、四十年の年月が過ぎました。高校卒業後、大学そして社会人と進むにつれ、故郷が遠くになっていきました。現住所は青森

県むつ市脇野沢。本州最果て下北半島、その半島のこれまた端っここの寒村です。ただし、本籍地は山崎町に置いています。仕事に伴う居住地の変更、結婚、自分の家を持ったとき、本籍を移す機会が何度もありました。本籍を移動してしまって、故郷を捨ててしまうような気になり、ずっとそのままにしています。遠く離れた雪深い北国で、故郷を意識するのは、事件や事故、自然災害のニュースに触れるときです。幸いにも大きな出来事はありませんでしたが、阪神大震災や近隣の佐用町の水害には心が痛みました。ついぶん昔のことですが、揖保川(河口部)の水質汚染が全国ワースト3にランク付けられました。生まれ育った地域の汚名には敏感に反応してしまいます。これも郷土愛なのかも知れません。

年一回、年末年始の帰省。四日から五日間の短い間、故郷の風土に包まれます。底冷えする寒さも、舞い落ちるわた雪も、陽だまりの温もりも、茜色に染まる夕焼けも、冬枯れの柿の木さえもが懐かしい。里帰りを四十年間欠かした

ことはありません。

年ごとに変貌する山崎町の街並み。時代の流れを憂い、ただただ傍観するだけでした。幼なじみや友との再会が楽しみだった若いころの帰省。いつの頃からか、故郷に一人住む年老いた母親の暮らしぶりを確認する帰省と帰省の目的も変化しています。手紙や電話では伝わらない母の“今”、やはり対面してはじめてひしひしと伝わってきます。

老いの状態、生活の維持、近所付き合いや親しくさせてもらっている方々との関係、判断力、それに決断力など、一人暮らしが可能かどうかを、まるで医者が診察するように観察します。声の張りや動作、物事への意欲、それに愚痴や怒りも老いを計る大事なポイント。

一方、母もまた、仕事は順調か、家庭は円満か、健康は、などなど。私の“今”を読み取ります。顔色や仕草、言葉遣い、それに服装や持ち物など、細かで些細なことから見極めます。いくら強がっても、見栄を張つてもお見通し、見抜く力を持っているのが親なのでしょう。帰省は、故郷や親元から離れた者にとって、せめてもの償いなのかもしれません。

動物写真家、この一風変わった職種に就いた私。撮影の拠点は下北半島全域。世界最北限のサルとして名高い天然記念物の下北のサル、兵庫県には生息していない特別天然記念物のニホンカモシカを中心、動物にとどまらず花や風物まで、自然全般の写真撮影に励んでいます。近年、ビデオカメラにも挑戦、活動の幅を広げています。

自宅近くのむつ湾で羽を休める数羽のオオハクチョウ。初冬に飛来し、早春に北帰行。はるか北方、シベリアの地が故郷。渡り鳥にも渡り鳥なりの故郷への想



ニホンカモシカの親子

いがあるのかもしません。

私の相棒のようなニホンザルはどうでしょう。ニホンザルは群れ生活者、年寄りから赤ん坊まで、あらゆる世代と一緒に暮らしています。雌ザルは生まれ育った群れで一生を過ごします。老猿の母ザルの世話をする娘ザル、娘といつても年老いています。まるで老老介護。ザルの暮らしは、母と娘の強い絆で支えられています。雌ザルは、生まれ育った群れがすべて、そこに故郷があります。

一方、雄ザルは全く別の生き方を選択しました。若者ザルになると、群れから出てハナレザルとなるのです。ヒトリザルとして生きる場合や、雄同士で小集団をつくることも。そんな雄ザルですが、自分で育んでくれた母ザルや群れのことを覚えているのかどうか、興味ある疑問です。



下北のサル 親子（初夏）



下北のサル 親子（冬）

著者のプロフィール

1954年 5月19日、兵庫県宍粟市山崎町生まれ。
1977年 麻布獣医科大学 獣医学部 獣医学科卒業。獣医師。
1985年～ 北国の豊かな自然と人情深い村人に魅せられて、「世界最北限のサル」の生息地である青森県下北郡脇野沢村（現：むつ市脇野沢地区）に移住。

野生のサルの暮らしを正確にかつ忠実に伝えることを念頭に、のびやかで、したたかに生きるサルの姿から、新しいニホンザル像を求める、フリーの動物写真家として観察・撮影に取り組んでいます。

また、「下北半島のサル調査会」の地元世話人として、北限のサルの保護・研究に携わり、人とサルとの共生を模索している。

ニホンザルをライフワークとしながら、世界各地に生息する180種類もの霊長類を対象に、サル専門の写真家をめざし、1992年から東南アジア（インドネシア・マレーシア）で主に類人猿を、1997年から中南米（パナマ・コスタリカ）で新世界ザルをテーマに、撮影・取材を始めている。

2004年～ NPO法人『ニホンザル・フィールドステーション』を設立、理事・事務局長に就任。ニホンザルを掛け橋に人が自然から学ぶ場をつくることや各地で活動する他団体との連携を強化しネットワーク化を進めるなどの事業を行う事務局を担当している。
2012年 映画「日本列島 いきものたちの物語」にカメラマンとして参加。

《著 書》

- 『しぜん・にはんざる』(1993年、フレーベル館)
- 『ひとりぼっちの子ザル』(1994年、講談社)
- 『「クゥ」とサルが鳴くとき』(2000年、地人書館)
- 『アニマ』(平凡社)、『S I N R A』(新潮社)で写真発表
- 『ようこそ、サルの国へ』(1996年、共同通信配信で地方紙に発表)
- 『いのちの半島 春・夏・秋・冬』
(2008年・2010年・2012年東奥日報掲載)

サルの丁寧な子育てや、じっと見つめ合い添う親子の姿から、親も子も忘れるわけがなく、たとえ離れ離れになつたとしても、双方が覚えていると、私は確信しています。自分が育った森も谷も、そして、仲間もきっと忘れることはないでしょう。雄ザルにとっての故郷は、ここの中にあるようです。取材で東南アジアや中南米へ行く機会がありました。言葉も人種も異なる異国で、現地の人々と集うとき、必ず話題になるのが、私の出身、いわば故郷です。「どこから来た」との問いに、細かな住所は必要なく「日本」と答えます。海外に身を置くと、日本が故郷となります。ただ、現住所は青森県むつ市、故郷は兵庫県山崎町と、頭の中で反復する自分がいます。

体力も精神力も少々自信がなくなり始めましたが、今一度、故郷を日本といえる海外へ取材で行きたいと画策しています。

などなど、知的センス抜群の先生との思い出は、尽きる処を知らないのですが、私のファイルを開くと先生の笑顔やお姿が現実のものとして存在するのであります。

◆山崎歌話会と稻村先生

山崎歌話会は先生のご指導のもと十数年、月に一度和気藹々の歌会を続けてまいりました。しかし白寿のお祝にお伺いし、お話を聞かせて頂いたのが最後となりました。葬送はご家族、近親の方々で行われた由。後日会員でお詣りし、ご靈前に弔歌を捧げ、ご子息と想い出を語り、改めて先生の人徳を偲びました。

ここに弔歌を転載させて頂きます。

- ・わが家に帰りいまさむ師のみ靈しのぶよすがの庭のつはぶき
- ・歌話会のルーツたのしく語られし白寿師のこゑ形見となりぬ栗山 節子
- ・百才を越えてもまだ緩みなく短歌を愛し天国までも城内 悅子
- ・初めての歌詠む吾に諭したる師君を敬ふ教え子われは森本千代子
- ・安らかにみ罷りまししと聴きし

とき心の杭の不意に崩るる

森本萬千子

。宍粟市議會議長賞
小さかりし母に合はせし手摺なり少しかがみて今わが使ふ

。水無月の降りみふらずみ草濡れて彼岸も雨が降っていますか

山崎 智絵

。宍粟市教育委員会教育長賞
青リンゴかきっと音させ囁む顔の日毎少年となりてゆく孫

山村 幸子

。宍粟市文化協会長賞
いかならむ使命あるかは知らねども百才ちかく生かされており

前田 幸子

。宍粟市歌人連盟賞
亡き友の名を書き連らね思い出の果なく募る雨の降る午後

栗山 文子

。宍粟市議會議長賞
探り掘りに手応のあり新じやがの拳がほどのころり現はる

秋田 嘉子

。宍粟市議會議長賞
あるじなき後の幾春咲きつぎし杏伐られぬその実抱きて

山崎 智絵

。宍粟市議會議長賞
遠からず我ゆくところ妻の待つ墓廻あかるく百日紅咲く

鈴木 喜市

。宍粟市議會議長賞
花咲くを想いえがきて老二人桜の苗木畑に植えをり

藤原みよし

。宍粟市議會議長賞
待つことは夢見ることよ咲くまでに七年かかるささゆりを播く

栗山 文子

。宍粟市議會議長賞
咲き誇るバラに心を奪われて柔き根張りゐる嫁宝なり

大倉 紗代

。宍粟市議會議長賞
田植すみ村人網をもちよりて鹿垣作る声の明るし

小林ハマ子

◆第八回宍粟市市民短歌祭

（九月九日・宍粟防災センター）
○兵庫県知事賞

汗染みる帽子に夫は大粒の初取りいちご五個持ち帰る

○兵庫県議會議長賞

中村 玲子

頑丈ですべりにくきを選りて買ふ今日より夫の足となる杖

○兵庫県議會議長賞

岡本 光代

炎天下の仕事に出かけゆく夫にドリンク剤を多めに持たす

○兵庫県議會議長賞

福居 紗子

うぐひすと耕耘機の二重奏に活氣づきたる過疎地の朝

○兵庫県議會議長賞

山本 三栄

畦草の今朝は刈られて稻の田は散髪されし少年のやう

○兵庫県議會議長賞

大井 千明

嫁ぎ来て三人の子供育てつつ良き根張りゐる嫁宝なり

○兵庫県議會議長賞

大倉 紗代

宝物をとりだすやうに思ひ出す母の手をひき過ごしたる日々

○兵庫県議會議長賞

佳作

岡本 光代

田植すみ村人網をもちよりて鹿垣作る声の明るし

小林ハマ子

俳

句

東山温泉へ吟行

青嶺句会 若松 幸子

桜前線北上の中、満開の桜の夢公園を右手に出発する。車窓より山桜、桜並木を左右に眺めながら波賀町へと、五分咲き二分咲きと、到着した東山温泉はまだ蕾も堅く所々で三桜の花が咲いていて懐しく心踊る眺めであった。四月も半ばだと云うのに当地では鳶の声もぎこちなく肌寒い一休みして静寂の中、宍粟の自然の移ろいを肌で感じ乍ら句作に入る。

・杉山の直立不動春遅き

延子

・平日の山荘静か花固し

緑山

青嶺句会詠草

・奥播磨桜に早く森青く

茂太

・春浅く蕾の固し東山
・さらさらと春の音して山静か

良子

・新緑の庭の草木に癒されて
・日当れば狭庭俄かに夏めきぬ
・止めどなき鳥語聞きをり端居して

門積 緑山

本條 淑子

・さくらさくら大和心の咲きいづる
薄木満寿恵

さわらび句会詠草

・春浅く蕾の固し東山

大谷 延子

・新緑の庭の草木に癒されて

秋久 光子

・さくらさくら大和心の咲きいづる

渡辺 明美

・止めどなき鳥語聞きをり端居して

藤坂 加代子

・さくらさくら大和心の咲きいづる

川崎 栄子

・止めどなき鳥語聞きをり端居して

小林 紫生

・さくらさくら大和心の咲きいづる

山口 勲子

・止めどなき鳥語聞きをり端居して

永井 とみ代

・止めどなき鳥語聞きをり端居して

田中 良子

・止めどなき鳥語聞きをり端居して

藤井 七代

・止めどなき鳥語聞きをり端居して

杉山 美保子

・止めどなき鳥語聞きをり端居して

川崎 栄子

・止めどなき鳥語聞きをり端居して

山岸 その子

・浅春の目覚めは遅く鄙の里

チエノ

・夏兆す揖保の川面の輝けり

鳥羽 チエノ

・花衣着迷ふ今朝の曇り空

トミ代

・新緑や孫サッカーのボール蹴る

田中 良子

・忘るるは許すことなり木の葉髪

川崎 栄子

・新緑や高原渡る風青し

藤井 七代

・賑わいの去りし土手道花は葉に

駆雲

・此の里の今も外風呂夕蛙

原田 駆雲

・雨近し燕は低く虫を追う

永井 とみ代

・白き雲天蓋にして山笑う

三浦 ゆき

・遅咲きと思いし桜競い合い

幸子 榮子

・みちのくの湯に眠りしか柳の芽

山口 勲子

・溝浚え終えし流れに笛の舟

若松 榮子

・沈黙の二人の仲もつ団扇風

明美

・沈黙の二人の仲もつ団扇風

秋久 光子

・水底に何を思案の蟾の道

渡辺 明美

・見上げれば吸ひこまれそう冬銀河

藤阪 加代子

・國生みの神話めぐるや冬の凧

小林 紫生

・冬温し五百羅漢に稚児の像

川崎 栄子

・夏兆す揖保の川面の輝けり

杉山 美保子

・縁小春思ひ出話盡きるなく

山岸 その子



山脈句会詠草

田中 慶英

しそう笹ゆり句会詠草

五色しそう句会詠草
☆綾部山吟行

鳥羽チエノ

- ・薄ら日を集めて大根干されゆく

浅田 薫耕

- ・掘炬燵昔に戻る友と我

小田 朝子

- ・梅日和わらべ地蔵の振り向きぬ

秋久 光子

- ・通学の童を隠す朝の霧

池田 陶瓦

- ・初御空雲清らかに伊和の杜

垣内 安代

- ・杖を引く人も笑顔や綾部山

井口 泰子

- ・鹿ヶ壺静かな刻を散るもみじ

稻田 富子

- ・細き目の嬰児笑ひて冬ぬくし

竹添寿美子

- ・苔木に野花はべらせ梅香る

三浦 雪

- ・雨雲光りて春をふくらます

宇野 幸子

- ・しつかりと天に向ひて冬木の芽

田中 慶英

- ・梅咲いて街いきいきと動き出す

富井 幸子

- ・せせらぎに釣竿たらす案山子かな

栗山きよみ

- ・着ぶくれて野バラの刺につかまり

内藤 裕子

- ・梅林の満を持したる蕾かな

角野桂治郎

- ・老二人歩む古町花曇り

田中 恵

- ・山の端の鳶のひと声春きざす

矢野登次郎

- ・瀬戸内の光を返す春の鳶

中田 文子

- ・影踏みの大小もつれ良夜かな

西田 宣子

- ・童顔の羅漢に似合ふ冬帽子

宗平 圭司

- ・萬葉の梅に日の燐風の燐

笠原 了

- ・連山を闇に沈めて十三夜

福田 祥栄

- ・潮騒が枕の句碑に梅香る

福元 敦子

- ・峠の道曲れば迫る霧襷

井口 洋子

- ・舌にしてふる里を恋ふつるし柿

坂野 働子

- ・月天心心の底まで光染む

清水 省三

- ・ばら色に染まりし児らと初湯かな

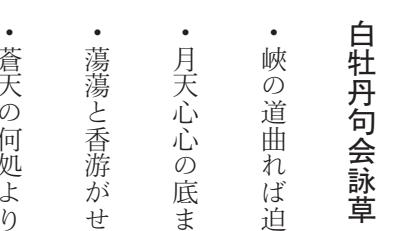
土井 洋美

- ・蕩蕩と香游がせて冬至の湯

重田 陽子

- ・ふる里の闇の深さや雪筍

速水美知代



白牡丹句会詠草

井口 洋子
清水 省三
重田 陽子

坂井 小百合
坂井 久栄
竹野 働子
坂井 小百合

なにわの伝統野菜

吹田慈姑

山崎植物同好会

谷川善彦

卷之三

一方、畠田ぐれいは古来淀川右岸の湿地帯に自生していたもので日本原産。小粒で青みがかり味は充実。戦前には多く見られたが、戦後の急速な宅地化や除草剤の普及で、またたく間に姿を消し、幻の野菜となつたのが昭和三十年代のこと。

「思いでる 鰯の骨切り すり流し
吹田くわいに 天王寺蕪」

が、銅座役人として大坂に在りし時の思い出を、江戸に帰任後、その味を懐かしんで歌に残したもので。 吹田の江坂に三十余年、豊中の縁地公園に八年半、山崎に帰り二年となりましたが、吹田くわいとの出合いは江坂時代に遡ります。

江坂の街が出来始めた頃、田の隅に矢じり形の葉を見つけた時でした
が、それは普通のくわいで、話に聞いた「姫くわい」ではありません。

塊茎から芽が出ていて、お目出たい正月のお節料理に使われるくわいですが、一般に売られている普通のものは中国原産。野生のオモダカから作られた栽培植物で、古い時代に日本に渡来したもののです。

絵等にも紹介されており、大坂名物
番付にも関脇の位置にされているこ
とからも、昔は大変珍重されていた
ことが解ります。

昔から正月に鴨形のわらうと藁苞に入れ、
目出たい縁起物、贈り物にされてい
ました。また吹田に仙洞御所のお料
地があつた関係で、天和三年から明
治維新まで二百年近く、毎年京都の
禁裏（本御所、仙洞御所、女御御所、
大宮御所）へ献上されました。

昔から正月に鴨形の藁苞わらつとに入れ、日出たい縁起物、贈り物にされていました。また吹田に仙洞御所のお料地があつた関係で、天和三年から明治維新まで二百年近く、毎年京都の大宮御所へ献上されました。

行委員会会長を始め谷笛利通会長以下、関係の会員による周到な準備の上に、和氣藹々の内に三時間にわたり、心に残る祝賀会でした。出席は会員二十七名、この中には創立以来のメンバーで、百歳の高井国雄さん、九十歳の杉元清美さんの元気な姿に力づけられました。また、市長はじめ郷土の政治、文化、経済などの中心でご活躍の十一人のご来賓とともに、市の現在と未来について話が弾

広く市内外から講師を招き講話を聞いています。昨年は「長水城と篠の丸城」、「里山の抱える課題」「新聞記者が見た宍粟」、「宍粟に住むおもしろ動物」、などの講話を興味深く拝聴したことでした。私たちは、歴史や環境、生物や教育、文学や社会について新しいことを知る驚きや喜びを持ち続けたいものだと思つています。

昭和六十年は「吹田くれい保存会」が結成され、様々な方面の運動が一
つになり、保存活動が推進されてい
ます。市、学校、各種団体、マスコ
ミ等の協力もあり、その名も広く知
られることがなった次第です。

創立当時の平均年齢は三十七歳だったということです。その若さで、戦後間もない昭和二十七年という、混乱した世相の中、山崎に文化の灯をとのねがいで、新潮会を設立されたとのことです。こうして大宅壮一や山田無文、西木正明など当時一流の文化人を何人も招き講演会が開催されました。先人の立派な業績を追憶

新潮会六十周年を終えて

新潮会会长 瓶内正敏

隨想

二〇二一年「今年の漢字」 「金」についての考察

山崎園碁同好会

前垣恒夫

そしてその趣旨はその一年を通じ世相を最も如実に言い現している漢字一字を選べと言うものである。

これは、日本あるいは、日本語独特の表現方法で、俳句や短歌に共通する日本の文化である。

さて、ここで今年の漢字に選ばれた「金」について改めてその理由を考えてみよう。

つまり、先程から述べているその一年の世相を最もよく表現している一字に該当するか否かである。

具体的には昨今の経済情勢である長引くデフレからの脱却、政界の混乱、震災後の復興の遅れ、外交では尖閣諸島や竹島の領有権問題等々、

暗い材料ばかりが目立つ。それでも今年の漢字が「金」とは、にわかには信じ難い。

確かに、オリンピックの金メダル、ノーベル賞の受賞等は、誠に栄誉な

何とも忙しない年の瀬である。
さて、今回少し気になつた表題の今年の漢字である。すでに、「金」と発表されたので、今更異論を唱えるつもりはないが、少し感じたことを述べてみたい。

そもそも、この行事は、年末の恒例行事としてすでに定着しているところである。

若い世代につなぐ

山崎茶華道協会

田中涼子

導をしておりますが、昨年子ども教室に來ていた子が、茶道部に入つて来ました。子ども教室は月に一・二度でした。きちんとお稽古が出来ていてびっくりしました。

その生徒が、観月茶会や文化祭のお茶席に来て先生方にお会いし、挨拶出来ました。

こうして先生方みなさん、お忙しい中指導して下さったおかげで、また、茶道の道に進んでくれてとても嬉しく思いました。

昨年の文化祭の花展でも、高校生が出品していて、こうして若い世代に、つなげられたらと思うばかりです。

役員の先生方みなさん、行事のたびに大きなお道具を運んだり、組み立てたり、季節のめずらしい山野草をみつけて来られたり、朝早くから遅くまで着物で頑張られて、とてもパワフルです。

数年前に茶華道の役員が、ボランティアで小学生の子ども茶道教室をしておりました。

その年は、年末の恒例行事としてすでに定着しているところである。

十一月一七日 記



宇原に伝わる郷土芸能を守りたい

宇原獅子舞保存会

井口浩一

昨年も十月に、宇原岩田神社にて宇原獅子舞が奉納されました。今では舞わし手の人数が減り、十二種類の舞いを全て披露・伝承できている訳ではありません。それでも、宇原に伝わる伝統芸能を守りたいと願う私を含めた二十代から三十代の若者が数名集まり、六十代から七十年代の先代の方々から、獅子舞を教わり伝承しています。

宇原獅子舞は、百五十年以上に渡つて郷土の五穀豊穣を祈願するため伝承されてきた獅子舞です。全国でも数少ない毛獅子で、紺木綿布に馬のたてがみを縫い付けてあります。雄は黒と茶色のたてがみを使用し、雌は白と赤茶のたてがみを使用しています。また、顔立ちは黒漆の上に金箔を施してあり、今では年代を重ね、黒光りが強く重厚さを増しています。

また、稽古は、毎年八月頃に始まります。地元で育った若者が時間をつくり、各地から何度も帰郷を繰り返し、地元の公民館で必死に汗を流して伝承に励んでいます。

そして、宇原獅子舞が披露されるお祭り本番は、地元の方々で会場が

埋め尽くされます。郷土に昔から残る獅子舞を懐かしく、そして楽しみにしてくださる方が一人でもいてくださるだけで、私達はそこにやりがいを感じられます。仕事が終わってから地元の公民館で連日連夜遅くまで稽古を繰り返して来た日々が報われる至福の一 日です。

今では、十二種類の舞いの内、十種類の舞いを伝承できるまでになりました。その中でも一種類の舞いは、今年、約二十年振りに復活することが出来た獅子舞です。舞わし手の人�数が少なく個人にかかる負担は大きくなりましたが、地元の方々の笑顔を見たいと願う一心で取り組みました。

来年、再来年、そして何十年先も、この宇原獅子舞が人々の心の中で生き続ける郷土芸能になって欲しいです。そのためにも、先代の方々から、獅子舞だけに留まらず、郷土に対する想いや魅力などを私達若者が引き継ぎ、守り抜くことで、これから育っていく子ども達へ残してあげたいです。



於：宇原岩田神社
平成24年10月宇原獅子舞の風景

書寫山圓教寺と和泉式部

昭和会
清水省三

昨年十月井上会員の紹介で会員二十名が圓教寺に参詣、精進料理をいたり、大樹大僧正の法話を聴いた。大講堂を始め多くの建造物と広さに西の比叡山と言われるのももっともと感服した。山上駅すぐに和泉式部の絵看板と奥に歌碑塚のあるのを見て、京の都と如何なる繋がりがあるのかと思った。

開祖性空上人は平安中期橘善根の子として生まれ、九州の日向霧島筑前で山岳修行ののち書写山に住み、九八五年国司藤原季孝の助力で法華堂を建立、翌年花山法皇來山の折御願寺と申請し許され圓教寺と開創、のちに法皇再び來山結縁し、他にも源信、寂心、寂照、和泉式部他多くの人々が結縁を求めて來山、貴族社会の大きな関心を集めた。

百人一首の「あらざらむこの世のほかの想い出に今ひとたびの逢ふともがな」の作者和泉式部は和泉守橋道貞と結婚、小式部内侍を生むが夫が任地に赴任中、冷泉天皇の第三皇子弾正宮為尊親王の寵愛を受け親

王死去の後、一年以内に弟師宮敦道親王の求愛を受け親王邸に移るなど、恋多き浮かれ女と左大臣藤原道長に彰子が一条天皇の中宮になるに仕えており平安王朝の華やかな時代の中、勅撰集には二百四十八首ととび抜けで多く入集している。彼女が十七才の頃、性空上人に「暗きより暗き道にぞ入りぬべき遙かに照らせ山の端の月」の歌を送っているのも後に人生の暗路に迷う己が姿を感じていたのかも知れない。

又晩年貴船神社に参拝した折、御手洗川の螢を見て、「物思えば沢の螢もわが身よりあくがれ出づる魂かとぞ見る」の歌も晩年の淋しき心情を詠んで人々の心に迫るものがある。謡曲「東北」にも謡われ、女性の性にまつわる罪障と宗教的救済を主題とする説話に、式部の名や歌が用いられ民間信仰と結合して全国に多くの墓や供養塔が出来たのも小野小町と並んで式部の歌の深さが偲ばれる。話は別だが近年ベルリンフィルコンサートマスター樫本大進氏他世界の名手を集めてのコンサートが姫路城や書寫山で行われているのも東西の文化交流の一つとして甚だ嬉しい事であります。

宍粟市少年少女合唱団へ

山崎児童合唱団

塚田美紀



今年で三十五年目を迎えた児童合唱団ですが、この三月で山崎児童合唱団という名前は終わりになってしまいます。四月からは宍粟市少年少女合唱団として生まれ変わります。

山崎町の音楽文化の基礎を作ろうと発足し、たくさん的人に愛され可愛がられ、支えてもらった児童合唱団です。三十五年の歴史の中にはいろんなことがありました、全日本少年少女合唱祭に参加するため全国のあちこちを旅行することができます。

団長先生のお世話で京都の西本願寺での演奏会ができること、阪神淡路大震災で被害を受けられた灘区の西林寺のがれきの中でミュージカル「不思議の国のアリス」を上演したこと、定期演奏会で募金を集め震災で親を亡くした子どもたちのホーム「レインボーハウス」に募金を送つ

たこと、アメリカのスクイム市での演奏会、労音さんのお世話でダ・カーポ、デュークエイセスなどの有名な歌手の方々との共演、みんなで大阪へ劇団四季のミュージカルを見に行つたこと、卒団し宝塚歌劇団に入った美鳳あやちゃんのデビュー公演を見に行つたこと、あとからあとから思い出がよみがえります。

近年では毎年定期演奏会で上演するミュージカルが好評を得てたくさんの方に定期演奏会に足を運んでいただけました。毎週快く練習会場を貸してくださった山崎幼稚園様ありがとうございました。演奏会に足をとどけ下さったお客様ありがとうございました。山崎児童合唱団を愛してくださいました皆様ありがとうございました。

名前は宍粟市少年少女合唱団に変わりますが、山崎児童合唱団での取り組みを生かしながら新しい発想や考え方を取り入れ、ますます充実した活動を開いていきたいと思います。これからも皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

私とさつき民踊グループ

さつき民踊グループ 米澤孝子

私がさつき民踊グループに入れた頃のは、三年前になるのですが、ある日、買い物で久し振りに岸本先生（坂東寿賀幸先生）に出会って踊りの話になり、私は踊りが好きで芸能祭で色んな方達が、元気で溌剌と踊っておられるのを見て、自分にも出来ないだろうかと思つていた時でしたので、思い切つてお願いしてみたところ「好きなら大丈夫」と言つて下さったのをいい事にお願いしました。そして、さつき民踊グループのリーダー西川さんにお願いして下さいました。西川さんも心良く受け下さり、嬉しかったです。

でもお願いしたもの、自分は本当に出来るのか、今から少しづつ襲つて来る物忘れとかが始まると頃に覚えられるか、いや、そう成らない為に頑張らねばと嬉しさ半分と心配で悩みました。初めての練習の日、先生、グループの皆さんも暖かく迎えて下さいました。踊りは案の定、手足と頭がついて行かず散々でした。

わりますが、山崎児童合唱団での取り組みを生かしながら新しい発想や考え方を取り入れ、ますます充実した活動を開いていきたいと思います。これからも皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

様日々練習し頑張っていきたいと思つています。

数ヶ月が過ぎて、芸能祭、ボランティアと舞台に立たせて頂くたびに、今日は間違えない様に、グループの方達に迷惑かけない様にとか緊張の連続でしたが、そのたびに先生、グループの皆さんが励まして下さつて今まで頑張つてこれました。色々な感動を体験させて頂き本当に感謝しています。



信州小布施で北斎と出合う

山崎美術協会

藤原義弘

桃の花が咲き、黒姫山には残雪が
みられる頃、信州小布施を訪れた。
小布施は、江戸時代には北信濃の
経済文化繁栄の中心地として賑った
ので、文人達もよく訪れたようであ
る。現在も町のあちこちに、それら
先人たちの足跡が残されている。

町の東方の山裾に、のんびりとし
た風情の岩松院がある。一四七二年
開基で曹洞宗の寺である。境内には
小林一茶が詠んだ「瘦せがえるまけ
るな一茶これにあり」の句碑があり、
小さな池では手のひら大の蛙がたく
さんいて、雌をめぐつての合戦がく
り広げられている様など、山寺なら
ではの風情である。

特筆すべきは、富嶽三十六景や北
斎漫画でしられる浮世絵師葛飾北斎
の肉筆画「八方睨み鳳凰図」で、二
十一畳の天井一杯に極彩色で描かれ
ている。寝転んで見る方がよいとの
ことで、寝転んで観る。赤、緑、青

などの彩色が当時のまま鮮明に残り、
その迫力に描写力の偉大さを感じた。

北斎が小布施に来たのは八十三歳
の高齢になってからである。それ以

後四回訪れ、岩松院の天井画を完成
させた翌年九十歳で世を去った。北

斎が高齢を押して江戸から小布施へ

足をはこんだのは、天保の改革によ
る儉約令により、錦絵の印刷や販売
が禁止されていたから、経済難のた
め、小布施生まれの豪商であり文化
人でもあつた高井鴻山を頼らざるを得
なかつたのである。

交通の発達した現在では、東京か
ら長野までは、新幹線でわずか一時
間余りだが、当時の江戸から信州小
布施へは六十里、歩けば一週間の道
のりである。年老いてからそれを成
し遂げた北斎の精神力の強さが伺え
る。

また北斎が小布施で描いたといわ
れる肉筆画、屋台の天井画や花の絵
など細部にわたる觀察力の鋭さや構
図の大胆さ、巧みな筆さばきと色使
いなど、その力量をしのばせる作品
が北斎館に残されている。

海外にまでその名を知らしめた浮
世絵師葛飾北斎の芸術は偉大であり、
後世に長く残していくであろう。

日本舞踊と共に今を生きる

山崎日本舞踊の会（さくら会）

井口富美子

主人のふる里、山崎に暮らして、
早や三十五年！光陰矢の如しと言わ
れます。が、歳月の移り変わりは齡を
重ねる度に加速するものの様です。
二十年間の会社務めを終え、又何か
新しい事を始めたいと思っていた時、
友人からの誘いで老人大学（現文化
大学）に入学いたしました。そこで

初めて日本舞踊と出会い文化祭でラ
イトを浴びて華麗に踊られる皆様の
眩ゆいばかりの姿が目に焼き付き

「私もあるの舞台で踊ってみたい！」
「でも私にあの様に踊ることが出来
るかしら…」と踊り好きな私ですが、
なかなか入部する勇気が持てません
でした。四年間の「かしわの学園」
を修了し「実年学院」に進み、やっ
ぱり踊りたいと思う気持が強く、そ
してやっと日本舞踊部への入部を決
めました。あこがれの舞踊の世界に
一步踏み入れることが出来ました。

森林王国と言われる山崎の地！古
き歴史を有し、多くの伝統文化の華
が咲き誇るもの、そこに生きるそれ
ぞの人達が、大切に育くみ、守り
続けて来られた賜だと感じます。
これから私も一日一日を大切に生
き抜いて、地域の人達に大好きな踊
りを通じて、喜んでいただける活動
をして行けたら、幸いと存じます。



び、師弟のあり方の大切さをおそわ
りました。時にはお師匠さんや友に
迷惑を掛け乍らも助けられて、いつ
の間にか十年が経ちました。その間
舅を見送り、三年前に主人を亡くし、
その悲しみも癒えぬうち昨年、三十
五年間共に暮らして来た姑も九十七
才の長寿をまとうし、あの世へと
旅立つて行きました。淋しさの中で、
ふと気が付けば今！私はひとり…早
や八十路間近かになっていました。

日本舞踊の醍醐味は、踊る曲目によ
り、いなせな男衆にも、あでやかな
芸者姿にも、可愛らしい乙女にも
なり切って踊る事が出来ることでは
ないかと思っています。

森林王国と言われる山崎の地！古
き歴史を有し、多くの伝統文化の華
が咲き誇るもの、そこに生きるそれ
ぞの人達が、大切に育くみ、守り
続けて来られた賜だと感じます。
これから私も一日一日を大切に生
き抜いて、地域の人達に大好きな踊
りを通じて、喜んでいただける活動
をして行けたら、幸いと存じます。

詩吟と剣詩舞との出会い

山崎詩舞道連盟

(大日本敬天社早渕流本部道場 山崎支部 師範)

香山鯉瑞光

充実した
気持ちいい時間

山崎町合唱連盟
(山崎町民合唱団)

前田三知代



新年おめでとうございます。地域の皆様方、文化協会役員の方々にはいつも早渕山崎支部にご声援、ご指導下さり感謝しております。有難うございます。

本題の「詩吟と剣詩舞との出会い」は意外に身近にありました。今は亡き舅の勧めで姑と共に詩吟の会に行つたのが詩吟との初めての出会いでした。「詩吟」即ち漢詩を吟じる、何が何だか解らないままにのめり込んでいきました。そののち詩吟の心を表現する剣詩舞との新たな出会いがあり、心洗われる思いをしました。知人の紹介で早渕流に入門し今も練達を目指しての日々です。思えば：詩吟からの出会いから三十五年今に到っております。私は、主婦と仕事のかたわら剣舞を練っています。仕事の中ではチーフリーダーとして両立、それも舅又主人の理解あっての事感謝です。伝統文化は地味なものでなかなかつかみ所が見えません。

だからこそ、その魅力をつかみ取り伝統文化の伝承に尽力下さった諸先生に感謝し、継承していく事が私達の務めと認識し日夜修行に励んでおります。

今春五月十九日（日）「春の芸能祭」十一月三日「文化祭」にはどうぞ皆様お誘い合せの上、ご来場下さいます様お願いいたします。

早渕流本年も一生懸命頑張ります。どうぞ変わらない声援をよろしくお願い申し上げます。

まだひよっ子の私ですが、先輩方のお優しいご指導で楽しくコールスの練習をしています。
合唱団にお誘いを頂いて早六ヶ月、月二回、一回二時間。
まだまだひよっ子の私ですが、先輩方のお優しいご指導で楽しくコールスの練習をしています。

民謡歴十六年。大きく息を吸っておなかから力いっぱい声を出し、朗々と唄うことを良しとし、あくまでも個人プレーです。

元来歌は好きで、民謡の他カラオケにもたまに行きます。

コーラスは、和と輪で協調性重視、ひとりひとりはおさえおさえ、全体として美しいハーモニーとなるチームプレーです。キャリアも浅く、まだまだ未熟で先輩方にご迷惑をかけていることと思います。うまくハーモニーに乗れた時は楽しくもあり嬉しくもあり、やってて良かったと思います。

二十四年三月に退職し、何をしよう

うかなと模索している時に、友人から合唱団へのお誘いを頂いて喜こんで参加させて頂くことになり、以後月二回の練習は欠かさず参加しております。

男性五名、女性十五名で、先輩方はプロの様な方ばかりで、最初は緊張もましたが今ではお仲間に入れて頂いたことに感謝し、もっと上手くなれるよう頑張ります。

本年三月に「しそうの森合唱祭」が私のデビューとなります。会場にお運び頂いた皆様に喜こんでもらえるよう只今特訓中です。

乞うご期待？



和太鼓に出会って

宍粟和太鼓アーツ倶楽部
山崎西中学校二年

川野あゆみ

練習を繰り返し、何とか追いつける
ようになると、努力の日々でした。

そして憧れていた和太鼓フェスティ
バルで演奏できた時は、この上ない
達成感を感じることができました。

この和太鼓教室は、学年も学校もそ
れぞれ違いますが、学校の部活動と
はまた違い、学年を越えた繋がりが
あり、舞台に立たせていただく礼儀
など、他では味わえないような、い
ろんな事を学んでいます。まだまだ
未熟な私ですが、舞台に立つ上では
大人も子供も関係なく、一人の演奏
者として自信を持てるように、これ
からも学び取り組んでいきたいと思
います。そして、練習場所として文
化会館の舞台を使用させていただき、
恵まれた環境で練習に励んでいます。

私が和太鼓に出会ったきっかけは
和太鼓フェスティバルを観たことか
らでした。本格的な太鼓の演奏を聴
いたことが無かった私にとって、太
鼓の音は心に響き、衝撃を受けまし
た。舞台に立っている人皆が伸び伸
びと楽しそうに演奏していて、とて
も輝いて見えました。人前に立つこ
とが苦手だった私ですが、「私も絶
対この舞台に立つて太鼓をしたい。」
と思いました。

そしてその年の春から、和太鼓初
級教室に入ることになりました。最
初は、なかなか上手く太鼓を叩くこ
とが出来ず大変で、周りの子に付い
ていくのに必死でした。

それから一年後に、和太鼓倭童子
に進級できました。初級と違い、レ
ベルが高く、倭童子の先輩方は憧れ
の存在でした。ここでもなかなか先
輩のように叩くことができず、家で

平成会の活動について

平成会

平成会の活動につきまして、日頃
から山崎文化協会様を始め各種団体
の皆様にはご指導ご支援を賜り、誠
にありがとうございます。この場を
お借りして厚く御礼申し上げます。
平成会は宍粟市内の幅広い業種の
経営者、勤務する者が中心となって
います。そして、練習場所として文
化会館の舞台を使用させていただき、
恵まれた環境で練習に励んでいます。
私達が和太鼓を続ける事ができるの
は、講師の先生方をはじめ保護者や、
協力して下さる方々に支えられています
お陰です。私達を応援していただき
て、本当に感謝しています。

この二十四年間活動を続け、当初
は二十代の会員も五十代となり、平
成会は今年で二十五年を迎えます。
私達の先輩に当られる新潮会は昨年
会発足六十周年ということで、ます
ます意氣盛んに活動をされています。
が、私達も本年三月には二十五周年
記念として兵庫芸術文化センター管
弦楽団を招いてオーケストラコンサート
を開催することとなり、多数の方
に楽しんでいただけると思います。

平成会は今後も地域の皆様のお役
に立つ活動を続けてまいりたいと思
いますので、今後とも宜しくお願ひ
致します。

今では倭童子の最上級生となり、
リーダーという大切な役目も与えら
れました。太鼓を通じて、かつて私
が感じたように、憧れを抱かれるよ
うな存在になりたいです。

総会では、会長のもとで毎年テ
マを定めており、二十四年は『温故
知新　一時間、地域をつなぐ』を
掲げ活動を行いました。活動内容と

しましては、会員を四班に分けて毎
月の例会を担当すると共に、恒例と
なっている行事としては六月のじゃ
がいも掘り例会と大晦日に山崎八幡
神社でのカウントダウンがあり、早
や二十年近く続いています。じゃが
いも掘りは町内の各保育所等の子供
達も収穫に招いて収穫の楽しさを味
わってもらい、カウントダウンは大
晦日の除夜の鐘を前に神社に参拝さ
れる方に年越しそばを振る舞い、新
年を迎えてもらっています。

この二十四年間活動を続け、当初
は二十代の会員も五十代となり、平
成会は今年で二十五年を迎えます。
私達の先輩に当られる新潮会は昨年
会発足六十周年ということで、ます
ます意氣盛んに活動をされています。
が、私達も本年三月には二十五周年
記念として兵庫芸術文化センター管
弦楽団を招いてオーケストラコンサート
を開催することとなり、多数の方
に楽しんでいただけると思います。

平成会は今後も地域の皆様のお役
に立つ活動を続けてまいりたいと思
いますので、今後とも宜しくお願ひ
致します。

一〇〇年前の

宍粟の名所旧蹟

山崎郷土研究会

宗平圭司

宇田辰男氏より、貴重な古書籍を提供いただいた。

それは、故宇田義雄氏が書かれた「宍粟の名所旧蹟」という書物である。

氏は、華道や造花の師をしながら、明治大正時代に旧宍粟郡内の名所旧蹟を丹念に調査研究し、多くの著作を残している。

それらの中より、ほんの一部であるが宍粟の名所旧蹟を紹介する。

(1)播磨一宮伊和神社 一宮町須行名祭神 男己貴尊（素盞烏尊第一子）
神戸郷十か村当国一宮社領二十石前殿を總神殿といい十六郡を祀る、前に拝殿がある。「正一位伊和大明神」の額は、小野道風の書である。

(2)船越山峯薬師（現在佐用町船越）真言宗船越山南光坊瑠璃寺の本堂の御本尊は、国宝の不動明王で弘

法大師の作であったが、残念ながら戦後の火災で焼失した。

(3)関の鹿ヶ壺（現在姫路市安富町）

は大小十三穴ある。大壺は計り知れない深さである。その奥に伊佐々

王と呼ぶ長さ一丈余りの神鹿が棲

み、人間に危害を及ぼすため國中

の武士を集め打殺した。大鹿が掘

りうがちたる跡を、鹿ヶ壺と名付

けられた。

紙面の都合上、名称のみ紹介する。

(4)山崎町小茅野 紅葉橋

(5)山崎町五十波 長水城址

(6)山崎町 篠の丸城址

(7)一宮町三方町 御形城址

(8)千種町千草 石原城址

(9)山崎町上ノ 岩上神社

(10)安富町 安志の城址

(11)波賀町上野 釣子瀧

(12)一宮町下野田 虚空蔵大菩薩

(13)山崎町 鹿沢城址

(14)一宮町東市場 岡城山

(15)山崎町須賀沢 聖山城址

(16)山崎町市場 高旗山

(17)一宮町 黒尾山

(18)山崎町下牧谷 石水奥の院
(19)山崎町川戸 東山院奥の坊
(20)一宮町草木 草置城址

(21)一宮町福知 高取城址

(22)山崎町土方 日照山神宮寺跡

(23)山崎町金谷 長谷山遊鶴寺跡

(24)波賀町原 不動の瀧

(25)一宮町公文 布引瀑布及び蓮花台

(26)千種町千草 大寺墓所（宇野氏）

(27)山崎町与位 山水景（洞門）

(28)安富町皆河 千年家

私と箏として想い

vol. II

山崎邦楽の会（絵夢の会）

岡本美穂

と私の気持ちにずれが生じ始めた事に加え結婚による環境の変化であれ程好きだった箏が重荷になってしまつたのがその理由かも知れない。

けれど四十歳を前にした頃、無性に又箏が弾きたくなつた。悲しい事にその時には師匠は宍粟に不在の人であった為、新しく先生に師事し、若い頃には二の足を踏んでいた人に教える事を始めた。

そうしようと思い始めたのは邦楽に携わる人がとても少なくなつてゐる現状を残念に思うからだ。人に教えるという表現は正直言うととても気がひける。私の思いは箏を弾いてみたいと言われる方に私の力で伝えられる事を伝え一緒に勉強し楽しむ事、音楽とはその字のごとく音を楽しむ事だと思っている。一番は箏の音を楽しんで欲しい、少しでも上達出来るお手伝いはしたいと思うが、無理に引っ張る事はしたくないといふ考えでいる。その一方で長いブランクのあとに今こうして弾けているのは昔の厳しい稽古があつたからと師匠には心から感謝している。

夢は文化会館の舞台で大人数での演奏、叶う迄にはまだまだ時間がかかるすっかり離れた時を送る事になる。師匠の厳しい芸に取り組む姿勢

上杉鷹山公

財政再建

山崎民謡連合会

小野晋

何事も、ならぬは人の、なさぬなりけり。」やる気を出してやれば、どんなことも、出来ないことはないというという意。

これは誰もが知つておられる、江戸後期の米沢藩主上杉鷹山公が、家臣に示された歌です。

この方は九州鍋島藩の大名家の出身で、米沢藩が養子にもらうわけです。当時米沢藩は、経済的に大変困窮していたそうで、そこへうら若い養子さんがやつてくるのです。相手のお嬢さんは「幸姫」といって、先代さんの娘で重度の障害者の方で、鷹山公はびっくりするのです。藩の人たちはこれは形だけで、側室を持たれて結構ですと言われたそうです。が、側室は持たれなかつたのです。形だけの夫婦ですが、鷹山公は優しく接しられたそうです。時に「幸姫」に「いろはに」を教えようとされたのですが、難しかつたようです。

この鷹山公の領民を心から愛するやさしさが、領民にも通じ、赤字だらけの米沢藩を、みんなで復興していくわけです。

当時領民は大名の為にあるのだと

いうのが、日本全国の大名と領民との関係だったでしょう。しかし、鷹山公は大名や武士は、領民の為にあらねどということを、立派に宣言しておられます。江戸時代にこんな大名がおられたことが感激です。

藩の中では、はじめは若僧がと反対もされました。が、鷹山公の心を知り、協力していくのです。そして並々ならぬ苦労の末、財政再建を成し遂げるので。今日あらゆるところが、財政再建を実施しておられます。これは僕約するだけでなく財政投資も

ある日「幸姫」の部屋に行くと手や顔を墨だらけにして、人形の真っ白な顔にゆがんだ顔を描いて差し出します。鷹山公はもう心から感激されたのです。そして心と心が、ふれあうことができる体験をされるのです。

アフリカの黒人指導者のノーベル平和賞受賞者の故ワンガリマータイさんが日本語の「もったいない」を氣に入つて、言つて下さつていましが、この精神を忘れずに無駄使いをしない努力が必要です。

今は特にどこもが財政再建が重要な時代だと思う一人です

大会に大金を使い、会員に大きな負担をさせて、何ともないのかと会の幹部の人に苦言を呈したこともあります。

アフリカの黒人指導者のノーベル

平和賞受賞者の故ワンガリマータイさんが日本語の「もったいない」を氣に入つて、言つて下さつていましが、この精神を忘れずに無駄使いをしない努力が必要です。

今は特にどこもが財政再建が重要な時代だと思う一人です

風景の味わい方 いいなあ！

ターンアートクラブ

保 杉 弘

春色は、里山の木々が芽生えてく

る頃、枝の重なりからクリーム色や

薄紫色から始まる。新芽には、赤紫

色を帯びたものもあり、ゆっくりと

黄緑色へと変わっていく。朝の日差

しにきらきらと輝く雪解け水、まだ

冷たい土の中から顔をのぞかせる蕗

の薹は春の香りを漂わせ、やがてそ

の土手は、黄色の花に覆われていく。

その黄色の陰で水色の小さな花びら

は、優しい色調を醸し出す。

筑紫が伸びてくると里山の黄緑色

は、日増しに緑色が強まる。まるで

山が膨らんでいくようである。

緑色の変化が落ち着く頃、草木は

四季の移ろいの中には、様々な色思つ。

鷹山公に学べということで本も出

ているそうです。

小生は、以前趣味の会で、総会・

の青紫色が輝きを増す。空の青、山の緑、鬼百合の橙、向日葵の黄が強まる元気な夏色に覆われてくる。

赤とんぼが、山を滑るように下り

てきて秋色を運んでくる。畦道の緑色と曼珠沙華の赤色は鮮やかに目に飛び込んでくる。さらに山色は、高山より赤、橙、黄の暖色に染まる。紅葉は、色的には暖色だが、空気はひんやりとしてくる。やがて木枯らしは、枯葉を散らし、風花の舞う冬色へと誘っていく。またモノクロの風景画となる。

南天や冬イチゴの赤に覆い被さる白い雪の様は、雪景色を描くときに、雪の下に色みのある色を忍ばすこともあり参考となる。

風景画を描くときには、忘れてならないのが、光と影である。四季の中でその季節ごとの朝、昼、夕の太陽の傾き、天候や湿度、そして風によるゆうぎ加減で、風景は違つて見えてくる。難しくとらえるなら、「ささゆり」の淡い桃色がかた白色は、条件が合わないと見られないのかもしれない。毎日見ていく故郷の風景も常に変化を繰り返している。まるで生き物のようだ。車での通勤途中「いいな」と思い通り過ぎる風景、

翌日足を止めてみると前日の高鳴る氣持ちは、どこへやら……「来年までお預けだな」と肩を落とすことよくある。

絵を通して、故郷の風景を眺めたときに心がけることは、その風景の中で戯れる自分をイメージすること。

見たまま描くことより、心を動かされた色あいを中心にして焼き付けておく。記憶のメガネを通して描かれた風景画の方が、部屋に飾ったときに絵の前に佇むことが多くなり味わい深くなると思う。

さてさて今年はいつ頃、蕗の薹の天ぷらを口にできるのかな。



十七年間を振り返つて・・・

バンブーファイブ 松岡 潔

尺八がメインの軽音楽バンド「バンブーファイブ」を結成して十七年。

ついに、その活動の幕を閉じました。

メンバーの高齢化も進み、体力的にも継続が難しくなってきたと言うこともあり、昨年の十二月をもって解散いたしました。

何かとお世話になり、応援していただいた皆様には心よりお礼申し上げます。

思い起こせば、平成七年に音楽の好きな千田さんと言う方を知り、五人のメンバーで「バンブーファイブ」を結成しました。

最初の内は試行錯誤の連続でしたが、段々とまとまり、形が出来てきました。途中ではメンバーが八人と言ふ時もありましたが、千田さんも亡くなられ最後には六人でした。

初めて「秋のふれあい文化祭」に出た時の事は、鮮明に記憶がよみがえります。アンプのスイッチを入れ忘れ、音の出ないまま最後まで演奏をしたのを覚えています。

そんな初ステージから始まって十

七年……あらゆる所で演奏しました。

ジャスコ、岩上神社、斑鳩寺、土曜夜店、もみじ祭り……数えれば

りがありません。

もちろんメインは毎年恒例の、陽寺のお寺コンサートでした。

最初の頃は、桜の花と軽音楽の夕べ、後には観月祭コンサート。かれこれ、十五回を数えました。

お寺では、毎年たくさんの方に喜んでいただきました。よく続いたところ思います。

私も千田さんと出会い、楽しくかけがえのない素晴らしい人生を送りました。

もしバンドをしていなければ、これほどまでに楽しい人生はなかつたと思います。

今は亡き千田さんには、本当に心より感謝しています。

もう、バンブーファイブはなくなってしまったが、楽器演奏は出来るだけ続けていきたいと思つています。音楽は、一生の友達ですね。

播磨さつき会

「終焉の期か」

播磨さつき会

田 口 實

はじめに、節約とか「もったいない」を尊んできた日本人が、なぜこんな使い捨ての消費社会にしたのだろくか。とくに日本は、敗戦の「どん底」から世界一の「金持ち」までをこの半世紀に体験して来ましたこと、経済発展に伴う産業構造の変化や消費社会の変貌をリサイクルという視点から、これからリサイクルは、再生資源の相場に左右されない、そして、ごみ処理という後始末的なものを凌駕した、自然と人間との関係の中でいかに環境保全をしていくかであり、そのためにもリサイクルが社会システムにとって不可欠であるといわれてから二十年を経た。今や地球は、可能性を秘めた広大な空間ではなく、地球という「地球船」の中で資源問題をはじめゴミ、公害、環境などすべてを処理していくかねばならないのである。

振り返って私達の大先輩は、敗戦

時は池田内閣の所得倍増計画から始まり、日本経済の成長期に入ったころから今日までの半世紀に亘り、小さな展示会から発展させ、関西一円に「さつきの町」を轟かされ、会員も三百人近くもいましたが、時の流れと共に大きく生活のスタイルも変りました。市内農村部においても省力化により余暇には自治会のみんなで保養、行楽など日帰り旅行と様変わりして来た現今、会員数僅か七名で

全員が後期高齢者、その平均年齢八十四・一才という状態であります。思考力、行動力の鈍った者ばかりで妙案なく、本会を存続するか否かの瀬戸際であり、来るべき総会で決する期と考えております。これまで多年にわたりご協力とご支援を賜りました多くのみなさまがたに衷心より感謝申し上げる次第であります。



後の物不足と史上最大のインフレーションに苦しめられ、さつき会創設

時は池田内閣の所得倍増計画から始まり、日本経済の成長期に入ったころから今日までの半世紀に亘り、小さな展示会から発展させ、関西一円に「さつきの町」を轟かされ、会員も三百人近くもいましたが、時の流れと共に大きく生活のスタイルも変りました。市内農村部においても省力化により余暇には自治会のみんなで保養、行楽など日帰り旅行と様変わりして来た現今、会員数僅か七名で

坊さんがおみくじを引く 恵比寿さん
乾杯のグラス重たい 長話
谷口 柳幸

半額を狙って休憩 高くつき
冷凍の去年の餅も年越し

夫婦仲 馬耳東風で波立たず
谷口 遊愉

それぞれの領分守って家平和
いないのにみんな知ってる龍の顔

これも固苦しい規則もなく各人が自由に思つた事を句にして月一回集まつて喋るストレス解消の集まりのせいと思つています。どなたでも入

破丸会も始めてから、はや百五十五回となり、よく続いたものです。

これも固苦しい規則もなく各人が自由に思つた事を句にして月一回集まつて喋るストレス解消の集まりのせいと思つています。どなたでも入

会される事を歓迎します。

川柳破丸会

清 水 省 三

A 清 水 省 三

A 清 水 省 三

A 清 水 省 三

A 清 水 省 三

A 清 水 省 三

A 清 水 省 三

A 清 水 省 三

A 清 水 省 三

A 清 水 省 三

A 清 水 省 三

A 清 水 省 三

A 清 水 省 三

A 清 水 省 三

A 清 水 省 三

A 清 水 省 三

A 清 水 省 三

坊さんがおみくじを引く 恵比寿さん
乾杯のグラス重たい 長話
谷口 柳幸

半額を狙って休憩 高くつき
冷凍の去年の餅も年越し

夫婦仲 馬耳東風で波立たず
谷口 遊愉

それぞれの領分守って家平和
いないのにみんな知ってる龍の顔

これも固苦しい規則もなく各人が自由に思つた事を句にして月一回集まつて喋るストレス解消の集まりのせいと思つています。どなたでも入

会される事を歓迎します。

お節出来あとはジャンボの夢にかけ

国民がさつと言えない新党名

千本 風筈

茶々が入り決った事が振り出しに膨らんだカードが威張るカラ財布

衣替えおなかへこましボタン止め

千本 花夢

字読めない孫が車の名スイスイ

本当に言いたい事は別れ際

出られない理由のある時来る宅配

坂東 笑稚

薄水を踏む玄関の午前様

ミニ民と鳴いてたセミがジー自と

田中 万来

眞夏でも氷河期の中卒業生

有り難い顔して分らぬ経を聞き

どこへ行くいつ帰るかと夫言い

眼医者行き目は治らずに風邪もうつ

新鮮と買った魚を三日目に見え隠れ

吉田 小舟

山崎いさわ 冠句会

中瀬公三

花仰ぐ
四季咲き桜雪かぶり
山口定子

（H24.4.29～5.5）
■第8回山崎ウォーキング&
ウォッキング
（山崎文化協会特別補助事業）

宝物 生れ育った過疎の里

花仰ぐ
我が人生に四季の風
嶋津千里

宝物 我がふる里の子供たち
宇田千鶴

花仰ぐ
父母の金婚祝う梅
山口定子

宝物 我を育むこの山河
谷笛まや

花仰ぐ
少し真似たい僧の道
中瀬公三

宝物 日本の心ありがとう
太谷志路

花仰ぐ
ゆっくり咲けと時を待つ
西川少升

宝物 あいさつ交わす都多の子ら
内海喜代子

花仰ぐ
春の山崎地区恒例イベントとなつ
た「山崎W&W」、今年は公開場所
が32カ所と、過去最多のイベントと
なりました。

宝物 あいさつ交わす都多の子ら
太谷志路

花仰ぐ
山崎地区生涯学習推進協議会や山
崎郷土研究会のご協力で、防災セン
ターに総合案内所を設置。また、初
めて町歩き案内を実施し、山崎の史
跡や公開場所を巡る町歩きを楽しん
でいただきました。

宝物 あいさつ交わす都多の子ら
内海喜代子

花仰ぐ
晴天の十月二十七日（土）、播磨
科学公園都市内で開催されたフェス
タの西播磨芸能ステージにおいて、
宍粟市を代表して「山崎日本舞踊の
会（郁踊会）」に出演いただきました。
特設ステージ（能舞台）におい
て日本舞踊「橋弁慶」を演じていた
だき、多くの来場者にご鑑賞いただ
きました。

宝物 孫と一緒の誕生日
内海喜代子

花仰ぐ
西播磨オータムフェスタ
in光都2012

宝物 泣いて笑える眞の友
中務淑子

花仰ぐ
西播磨オータムフェスタ
in光都2012

宝物 身体が資本老いの道
宇田幸夫

花仰ぐ
西播磨オータムフェスタ
in光都2012

宝物 泣いて笑える眞の友
中務淑子

花仰ぐ
西播磨オータムフェスタ
in光都2012

宝物 身体が資本老いの道
宇田幸夫

花仰ぐ
西播磨オータムフェスタ
in光都2012

宝物 泣いて笑える眞の友
中務淑子

花仰ぐ
西播磨オータムフェスタ
in光都2012

大槻浩美

花仰ぐ
香り漂い春を待つ
三木ひづる

花仰ぐ 人の命のはかなさに
高井玲依

花仰ぐ
香り漂い春を待つ
三木ひづる

平成二十四年度
イベント報告



第8回山崎W&W 町歩き



第8回山崎W&W
ターンアートコンサート



西播磨オータムフェスタ
in光都2012

宍粟市山崎文化協会

役員及び団体名

理事 副会長 伊野 清水 浅田 井口 宗平
監事 町 浅田 栗山 竹添 大西 三谷 志水 平山 衣笠 秋久 福岡 西川 片山 中谷 藤永 田口 前野 小野 清水 安井 大畑
武一 悅子 耕三 國司 武三 操治 省三
和彦 耕雲 節子 進 恒二 憲二 恒三 勝三 進
山崎植物同好会 山崎文學會 山崎鄉土研究會
新潮會 山崎歌人協會 山崎茶華道協會
山崎団體同好會 山崎謡曲同好會 山崎邦樂の會
山崎茶華道連盟 山崎詩舞道連盟 山崎町合唱連盟
山崎邦樂之會 山崎詩舞道連盟 山崎詩舞道連盟
山崎美術協會 山崎俳句協會 山崎邦樂之會
バンブーファイブ タンゴ民謡團合會 川柳破丸會
播磨さつき會 平成會 山崎町合唱連盟
森義和鼓譟一俱樂部 山崎詩舞道連盟
山崎詩舞道連盟 山崎詩舞道連盟

事務局だより

今、私は宍粟市観光基本計画策定検討委員会のメンバーの一人として、観光基本計画に参画しています。宍粟市では、昨年三月に「ふるさと宍粟観光条例」制定して、観光立市を実現するための基本理念や取り組みの基本事項を定めました。そして、その実現に向けた取り組みを総合的かつ計画的に推進するための基本計画づくりを進めており、その骨子がようやく完成間近となっています。題して「ふるさと宍粟の観光基本計画」(サブタイトル／みんなで観光まちづくり)であり、観光が当市の今後の発展の大きなキーポイントとなるとしています。

では温泉施設の利用や道の駅などの飲食・買物が多く、次いで登山やスキー、ゴルフなどのスポーツ・レクリエーションが多くなっています。宍粟市の面積の九割を占める山林は自然資源の宝庫であり、四季が織りなす豊かな自然と清流こそ宍粟市が誇れる観光資源と捉えるべきです。

また、古代から私たちの先人がコツコツと築きあげた足跡として残る各地の史跡や遺物なども貴重な観光資源となります。これらにとどまらず、宍粟ならではの衣食住を通じた當みも工夫次第でその資源となることと思います。

旅行者を受入れることを通じて、この地の魅力に気づき、誇りや愛着が育まれ、それを繰り返すことによって訪れてくる人をもてなす心が醸成される、そんなサイクルができれば、「観光でまちづくり」が実現するのではないか。うか。」「宝栗はええとこやで！」と呼びかけられる市民が多くなることを願うものです。

編集後記

事務局次長 大谷司郎

今年もようやく春めいて「やまさ
き文化」発行の季節となりました。
巻頭小説をお書き下さいました荒
木俊介様、立派な作品を有難うござ
いました。少し難しい感じもします

が一。特別寄稿をいただきました松岡史朗様、お小さい時からよく存じ上げておりましたあの坊ちゃんが、こんなお写真を撮つていらっしやるのだとテレビで拝見しておりました。今回のお御寄稿有難うございました。おやさしい文面に感心しました。

短歌と俳句は毎年多くの作品が出され、立派なページ形成がされています。西欧人は情報に対して言葉の依存度が高いが、日本人はすべてを言葉で表さなくとも、人としての情報が十分伝えられるようなどを重視してきた、といわれています。短歌や俳句は正にこれに当てはまります。短歌や俳句を詠む人が多いということは、日本人の言語感覚の特徴を持つっている人が多く、それに基づいた文化が旺んであるということになります。

いぎだに
生谷温泉

伊沢の里

○お祝いの会食 ○法要後の会食

その他各種宴会承ります

リラクゼーションルーム 好評稼働中

〒671-2517 宍粟市山崎町生谷214番地1 TEL0790 (63)1380



コーエーカメラ Specialty Camera Shop

■本店/〒671-2576
TEL(0790) 62-2089 FAX(0790) 62-7429
E-mail info@ko-e-1972.com

■咲ランド店/〒671-2545
兵庫県宍粟市山崎町中井10 咲ランドSC1F
TEL・FAX(0790) 63-0533
E-mail saki@ko-e-1972.com

幸 幸せへの旅立ちに——。

ふじむら貸衣裳

宍粟市山崎町山崎181 TEL(0790) 62-0052

デンソー指定サービスステーション
自動車電装品整備・携帯電話代理店

カメウチ電器株式会社

本社・工場 兵庫県宍粟市山崎町今宿 98-15
TEL (0790) 62-1607(代)
太子営業所・姫路営業所・神戸営業所・福崎店

宍粟市を舞台とした信頼と連携の「コミュニティ活動支援型地域SNS」サイト



しそうSNS・

PoweredBy 宍粟市商工会 &しそう観光協会 <http://shiso-sns.jp>

「しそうの逸話」ムービーシアターコミュニティ http://shiso-sns.jp/community/?bbs_id=96
「しそう歳時記」コミュニティ http://shiso-sns.jp/community/?bbs_id=111
「しそうの地名(由来)」コミュニティ http://shiso-sns.jp/community/?bbs_id=102
「宍粟の城跡」コミュニティ http://shiso-sns.jp/community/?bbs_id=122
その他、宍粟地域の情報がいっぱいのコミュニティやブログなど

就職シーズン、はじめてのお車購入に、買い換えに

マイカーローン



森の妖精/ネーチャ



●豊かな街づくりをお手伝いする●

西兵庫信用金庫

<http://www.shinkin.co.jp/nisisin/>

TEL 0790-62-2020



森の妖精/サッキー

ご入学・ご進学等、教育資金に

教育カードローン

一献献上 品質本位

まごころを伝えます。

TEL. 0790(62)1010
FAX. 0790(62)6218



確かな品質と味わい。



SANYOHA I
山陽盃酒造株式会社
兵庫県宍粟市山崎町山崎 28

貴邸の電力を自給自足!



スマート&工つな
「光熱費=ゼロ」リフォーム

= お車と住まいの快適、なんなりと =

ホンジョウ

(株)本條商店・ホンジョウプロパン(株)
本社 宍粟市山崎町中井 96

石油・タイヤ・洗車・オイル
バッテリー・車両整備・保険
電話 0790-62-4321 電気・ガス・水道工事・家電全般
住宅リフォーム・太陽光発電
電話 0790-63-1234

創業明治28年・さつき本舗

四季の菓子

御進物・おみやげ・お茶うけに、四季折々の
真心こめた手づくりの御菓子を

本店：播州山崎町さつき通り (電)0790-62-0170

山田店：播州山崎町山田 (電)0790-62-0160

福崎店：福崎町西田原 1177 (電)0790-22-7555



御菓子司
さつき

和

の複合筆記具シリーズ

～風神雷神・狛犬・富士山・桜・鳳凰・藤・金魚・紫陽花…等
私達は日本人の伝統文化を誇りに思います～

パソコン・コピー機・文具・筆記具・オフィス用品の

イトーオフィスサービス(株)

山崎町中庄瀬 宍粟市役所前

TEL 0790-62-0126